

# 鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 29号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2001. 12. 27

編集 芳村恵子

〒680-0002 鳥取市浜坂東 1-10-15

## 平成13年度中国四国ブロック 青少年育成アドバイザー研究集会高知大会 高橋 譲

高知大会は10月13・14日、高知県伊野町「伊野かんぽ保養センター」で開催されました。会場は高知市街を東西に走る路面電車の土佐電鉄の終点伊野近くで、仁淀川のほとりに建つ風光明媚な位置です。

集会は、まず中国四国ブロックアドバイザー連合会総会が行われ、続いて研究集会に入りました。

基調講演は「ひろげよう まず 地域から活動の場を」と題して、四国総合教育研究所長の横川遊亀壽先生がユーモアを交えながら、人の生命は人づくりから始まり、人を結びつけ、人を育てることにあると力説されました。そのためには町づくりネットワークが大切であり、子どもの声をよく聞くアドバイザーであって欲しいということでした。高知県子ども会の人間機関車と言われた福岡弘幸元全国子ども会連合会副会長の弟子であるという横川先生は、自分の信条をGNP（元気でのんびりポックリ）だと言われ、人生の坂道をどう生きるかは自分次第だと話されて、会場から笑いが絶えないお話でした。

続くワークショップ「交流タイム」では、「構成的グループエンカウンターの手法を用いて」として、高知市教育研究所の上村国之指導主事の指導による、他己紹介や協力作図などのグループワークが行われました。青少年育成に思いを寄せる人たちがばかりです。とても盛り上がった交流タイムになりました。

第二日は、実践発表・研究協議で三分科会に分かれて行われました。高知市立三里小学校スクールボランティアの田辺司乃さんによる「お話隊がやってきました。」では、読み聞かせボランティア「お話隊」の活動が紹介され、参観日に我が子の姿が見えてこないことに気づき、保護者として地域の大人にどんな事が出来るかを話し合う内に、PTAボランティアとして「お話隊」が発足した事、学校の協力で、会場が図書室から冷暖房の完備した畳のランチルームになった事、回を重ねるうちに、自分が本を読む

のが楽しくなり、子どもたちから楽しみをもらった事、本を読むだけでなく子どもたちと一緒に物を作る活動をしたり、生きた歴史として昔の自分たちが知っている話を語っている。今の課題は高学年向きのお話が少ない点である。等々。これからは、我が子と自分の成長に合わせながら地域のお役に立ちたいと、生き生きとして日頃の実践を発表されました。

香川県アドバイザー会会長の玉置三千行さんは「特技を活かした青少年育成活動」と題して発表されました。ご自身の地元である多度津の一地区、白方町民会議の活動として、白方小学校区人材データベースを作成し、地域からの講師を招いた学習や、環境緑化活動、自然体験学習、三世帯体験交流として今と昔の暮らしを語る会、親業のアドバイザーの協力によるお手玉遊び、等々、学校の授業とは違った活動を展開している実践を発表されました。



これらの発表について、会場から活発な質問や意見があり、途中休憩もなく瞬く間の二時間でした。各分科会とも活発な研究協議が行われ、本当に時間を惜しんで息つく暇もない熱気溢れる雰囲気、アドバイザーの熱意には感動させられました。

閉会式では、中国四国アドバイザー連合会会長の挨拶の後、次期開催県挨拶—高知から鳥取へ—を行いました。故末次一郎氏による広島宮島の大しゃもじを高知県アドバイザー会会長から引き継いだ後、鳥取県から参加のアドバイザー四名、西浦・森岡・井上・高橋が参加者を前に、来年11月、鳥取県米子市に沢山のアドバイザーがお越しいただくように一言ずつアピールをしました。

また、青少年育成鳥取県民会議事務局長山崎洋一先生にもご参加頂き、来年度に向けた取り組みについてご指導を頂きました。さらに、開会式・閉会式に高知県以外の県からは唯一、鳥取県民会議事務局長として来賓席に登壇して頂き、高知大会に花を添えて頂きました。

# 結成35周年記念 平成13年度 青少年育成鳥取県民大会を開催

(概要)「全国青少年健全育成強調月間」の始まる11月1日(木)、県民文化会館小ホールにおいて、「結成35周年記念、青少年育成県民大会」が、平井鳥取県副知事、有田鳥取県教育長、岸本鳥取市助役ほかの来賓と、約300名の育成関係者等が参加して開催された。

八村会長の開会あいさつに続いて、優良青少年団体、育成功労者、「少年を守る店」優良店の表彰が行われ、そのあと、鳥取県副知事と鳥取市長から祝辞をいただき開会行事を終えました。

本大会のメインである「青少年育成パネルディスカッション」には、小中高校生代表6名と大人(親)の代表6名が「大人に望むこと、青少年に期待すること」をテーマに、活発なパネル討議を行い、聴衆からも拍手や笑い声も聞かれ、育成関係者からは、青少年の生の声を聞くことができ、大人の反省すべき点や青少年の育成活動に参考になることがたくさんあったという声も聞きました。

最後に、大会決議(アピール)を全会一致で承認し、井上副会長の閉会のあいさつで大会を終了しました。



●開会あいさつをする八村会長

## 青少年育成パネルディスカッション 『大人に望むこと、青少年に期待すること』

### <パネリスト>

#### 青少年代表

久松小 6年 森谷 遼  
〃 6年 山本 菜美  
鳥取北中3年 福井 妙  
〃 3年 吉田 昌平  
鳥取東高1年 吉岡 なつみ  
鳥取工高3年 山根 良夫

#### 大人(親)代表

松田創基 醇風小P会長  
清水成真 青少年育成アドバイザー  
西原定代 倉東高育友会長  
松下栄一郎 鳥西高P会長  
西浦公子 親業インストラクター  
平井伸治 鳥取県副知事

### <コーディネーター>

青少年育成県民会議常任委員

県青少年育成アドバイザー協議会長 高橋 讓

### ◀観覧者一覧▶

#### ◎(社)青少年育成国民会議会長表彰

##### ○青少年団体

・大栄町高校生サークル「夢雲」

#### ◎青少年育成鳥取県民会議会長表彰

##### ○青少年団体

・鳥取市子ども会連合会  
・若桜町高校生ボランティアサークル  
・溝口町高校生サークル「シリアス」  
・ボーイスカウト鳥取連盟米子第11団

##### ○結成35周年記念 功労者

・山田義明(鳥取市)  
・遠藤綾子(大栄町)  
・寺崎健一(用瀬町)

##### ○青少年育成功労者

・寛 弘(鳥取市) ・下田 衛(用瀬町)  
・浦川 淳一(鳥取市) ・関 亮一(倉吉市)  
・衣笠日出男(郡家町) ・金田千義(名和町)  
・坂本 治(河原町) ・竹中一郎(溝口町)

##### ○「少年を守る店」優秀店

・フードショップはやしばら(名和町)  
・大谷書店(淀江町)  
・フレッシュストアもりもと(溝口町)

### 生徒ら交え本音討議

青少年育成  
県民大会

青少年育成県民大会が、鳥取市の県民文化会館で開かれ、教育関係者など約3百人が参加した。子供の本音を聞こうと初めて小・中学生も加わったパネルディスカッションが行われた。高生も加わったパネルディスカッションが行われた。「社会のルールに従うのは「大人に望むこと・青少年に期待すること」をテーマに、子供から大人まで、大人6人の計12人が参加して本音を出された。

青少年育成県民大会が、鳥取市の県民文化会館で開かれたのは、真つ二つに分かれたのは、子供の茶髪やルースソック、化粧など、子供は拒否反応を示したが、子供らは「全然抵抗感がない」。「社会のルールに従うのは、子供から大人に対しては子供から大人の乱れたマナーを直すのが先。私たちの話にもっと耳を傾けてほしい」との意見も出された。

# 『少年の主張』鳥取県大会 『今、中学生が訴えたいこと』

最優秀賞(鳥取県知事杯)に若桜中3年生の山本拓司君

第23回「少年の主張」鳥取県大会は、去る9月20日米子市文化ホールで開催された。1次、2次の作文審査で選ばれた13名の中学生が、約700名の生徒、育成関係者を前に、自分の体験に基づいた主張を発表し、聴衆に共感と感動を与えた。



125名の応募作品の中から最優秀賞に輝いた若桜中の山本拓司君は、筋ジストロフィーで小4の時から車椅子の生活を送っ

ている。そんな彼のために、特別ルールの手ドベースボールを考案したり、休日には彼の家を訪れて遊んでくれる友人や家族に感謝しつつ、親からもらったかけがえのない「生命」や友人を大切にして、日々一生懸命に生きようとしている山本君が、発表の最後に「今、僕は生きてます」と力強く言い放った一言は、会場に大きな共感を呼んだ。

優秀賞の倉吉東中の田村智子さんは、本で地雷の恐ろしさを知って、危機感を持ち、「今、あなたと私達にできること」は何かを訴えようとした。南部中の岩垣穂大君も、22分に1人が地雷に傷つけられていることを知り、世界の子どもたちが平和に暮らせる努力を「将来の担い手として」やりたいと訴えた。

境港一中の大山君は、近くのどぶ川から川の悲鳴が聴こえてくるような気がすると、環境汚染から地球を救うために、まずゴミを捨てまい、捨てさせまいと決意を訴え、尚徳中の中村美帆さんは、盲導犬を連れた人と初めて出会った時、何もしてあげられなかった反省から「できることから始めよう」と支え合うことの大切さを主張した。倉吉中の竹歳さんは、今年の夏、影絵の公演で倉吉に来たカンボジアの子どもたちと、言葉は通じなくとも心が通じたことをそれぞれ訴えた。

そのほか、不登校の体験から、学校に行くようになったのは「熱心に誘ってくれた先生のおかげ、私も人の役に立ちたい」という発表や、ホームヘルパー体験から高齢者の支えになりたいとの発表もあり、会場の参加者から、心打たれるものがあったと言う感想も聞かれた。

## 入賞(発表者)

### ○最優秀賞

(県知事杯) 山本拓司(若桜中3年)「生きる」

### ○優秀賞

(県教育長杯) 田村智子(倉吉東中3年)  
「あなたと私にできること」

(県議会会長杯) 岩垣穂大(南部中2年)  
「将来の担い手として」

(市長会長杯) 大山勤(境港一中2年)  
「川の悲鳴が聴こえませんか」

(町村会長杯) 中村美帆(尚徳中3年)  
「できることから始めよう」

(NHK鳥取放送局長杯) 竹歳真帆(倉吉東中3年)  
「カンボジアの子どもたちに学ぶ」

### ○優良賞(発表順)

渡辺綾乃(中山中2年)「私に気付かせてくれたこと」

田中佑実(湖南中3年)「いい所探し」

井田智延(南部中3年)「本当の自分」

門脇 舞(湊山中3年)「一人では何もでない」

中嶋舞美(湖東中3年)「もう一人の自分」

中村峻輔(倉吉東中3年)「本当に大切なこととは」

奥田 茜(福部中3年)「ホームヘルパー体験を通して」

## 審査員

鳥取県中学校長会代表	大口 正男
NHK鳥取放送局米子支局長	河瀬 謙二
新日本海新聞社論説顧問	白岩 尚
鳥取短期大学教授	山田 修平
「男女共同参画推進会議米子」会長	早原 彰子
鳥取県教育委員会小中学校課指導主事	松岡 一
青少年育成鳥取県民会議常任委員	安江 禎晃



23回大会の「発表文集」は、間もなく、各中学校、高等学校、公立の図書館、各県民室、関係機関等へ配付しますので、機会があり

ましたら、目を通していただきたいと思います。なお、14年度の大会は、中部地区で開催を予定しています。

平成14年度

第8回中国・四国ブロック

青少年育成アドバイザー連合会

研究集会 \* 鳥取大会

期日 平成14年11月23日・24日

会場 鳥取県米子市『ふれあいの里』

『ホールサムインかいけ』

主催 中国・四国ブロック

青少年育成アドバイザー連合会

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

第1回実行委員会

期日 平成13年12月9日(日)

場所 米子市明道公民館

鳥取大会の日程、会場が決定される。

予算についても協議する。

[予告]

第2回実行委員会

及び鳥取県青少年育成アドバイザー研修会

期日 平成14年2月10日(日)

場所 県民ふれあい会館(鳥取市扇町21)

日程 研修会 10時30分~12時

第2回実行委員会 13時~16時

皆さん、是非都合をつけて出席してください。

案内は後日送ります。



電話相談員養成講座に10代が

福岡で20人が来春から聞き手に

民間の子ども電話相談「チャイルドライン@ふくおか」(事務局・福岡市)の聞き手ボランティア(相談員)養成講座の募集に15歳女子10人を含む青少年20人(15~18歳)が名乗りをあげ、スタッフを驚かせている。彼らの中から来春には相談員が誕生、同世代の悩みの聞き手になる。

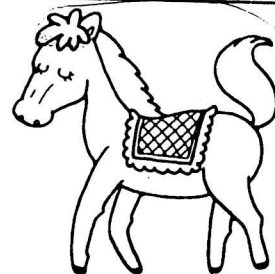
この相談電話は、昨年5月に「子どもの話をとこと

ん聞く電話」として誕生した。聞き手は40代の教師らがボランティアで務めている。「電話をかけてくる子どもの年齢に近い、若い相談員を募ろう」と聞き手養成講座の対象を25歳以下にしたところ、40人の応募があり、うち半数を10代が占めた。

10代は福岡市や北九州市などに住む高校生ら。応募動機は「友だちが相談を掛

けるのを聞いているうちに興味を持った」「学校生活で疑問に思っていることがあるし、友だちとの日ごろの関係を通じて自分も役に立てるのでは」「将来、教育関係の仕事がしたい」など。10月から週1回、弁護士や精神科医、児童相談所職員らから研修を受けており、早ければ来年5月にデビューする。

(11月7日・毎日新聞)



編集後記

「年賀状は元旦に届くよう~~~までに」のお知らせを横目に先送りしている間に、とうとう期日が過ぎてしまいました。こんなことも何年ぶりかと、ため息がたきます。

まあいいか。馬の蹄の音を聞いてから本当の「おめでとう」を言うことにします。

皆さまお元気で、良いお年をお迎えください。